<table>
<tr><td>プロジェクト名</td><td colspan="3">超少子化し人口減少する地域の現状に立ち持続可能な社会を構想する
――山陰における学際的ジェンダー研究拠点の創出</td></tr>
<tr><td>代　表　者</td><td colspan="3">法文学部教授 佐々木愛</td></tr>
<tr><td>達成に資する
SDGs 目標</td><td colspan="3">No.5（中心）、No.3, 4, 8, 10, 16, 17（関連）</td></tr>
<tr><td>プロジェクトの意義、成果及び波及効果</td><td colspan="3"><u>プロジェクトの意義</u>
日本における合計特殊出生率は 1.13（2025 年）と超少子化が進行し、さらに島根県は若年層の人口流出の割合が全国で 12 位（女性は 9 位）である。このような島根県で地域コミュニティを持続させるためには、若者、特に若い女性が生きにくくなっている要因の抜本的な克服が必要である。少子化や人口減少の要因は複合的であるが、高度成長期に作られたジェンダーロールが現代社会には不適合となったことが要因の一つであることは言を俟たない。
本プロジェクトでは、文系諸分野の研究者が集結して学際的なジェンダー研究組織を作り、現状の日本社会におけるジェンダーが、時代や地域によって異なる多様な形態の一つにすぎないことを明らかにし、その相対化を図るものである。研究会やシンポジウムの開催により、研究成果をメンバーや地域社会と共有し、新たな時代にふさわしいジェンダーとそれにもとづく社会を構想したい。
このようなジェンダー研究の推進と成果の共有は、SDGs 目標 5（ジェンダー平等を実現しよう）に直接関係し、かつ以下の SDGs 目標に関連する。

SDGs 目標 3（すべての人に健康と福祉を）女性の健康、リプロダクティブ・ヘルス/ライツと妊娠・出産・不妊治療、福祉の担い手に関する諸問題
SDGs 目標 4（質の高い教育をみんなに）新時代にふさわしいジェンダーを構想する力をもち、持続可能な社会づくりを担い得る学生の育成
SDGs 目標 8（働きがいも経済成長も） ケア労働、雇用形態の不安定化、ジェンダー間賃金格差等の諸問題
SDGs 目標 10（人や国の不平等をなくそう） 地域・国家間格差とジェンダー
SDGs 目標 16（平和と公正をすべての人へ）戦時のジェンダー構造、ジェンダー平等的な法と政策
SDGs 目標 17（パートナーシップで目標を達成しよう）学内の様々な学問分野の研究者をはじめ国内・海外の諸大学や研究者、地方公共団体、ＮＧＯ等との協働の推進</td></tr>
<tr><td rowspan="2">実 施 体 制</td><td colspan="2">担当部局名・職名・氏名</td><td>役割</td></tr>
<tr><td>法文学部教授
法文学部准教授
法文学部准教授
法文学部准教授
法文学部准教授
法文学部准教授
法文学部准教授</td><td>佐々木愛
浜田幸絵
桜田真理絵
仲地二葉
野間純平
野本瑠美
前田しほ</td><td>研究統括。歴史とジェンダー（中国・東アジア）
研究副統括。メディア/スポーツとジェンダー
歴史とジェンダー（日本）
経済とジェンダー
言語とジェンダー
文学/和歌とジェンダー
文学/戦争とジェンダー</td></tr>
</table>